



### あゆざわ 鮎澤 美知さん

と思っています。  
今問われているのは合併という形を作ることも大事ですが、実はこれをきっかけにして、私たちがこの地域に住む一人一人の住民として、どれだけ主体的にまちというものに関わっていただけるかということが問われていると思います。

福祉などの面で広く考えたほうが良い面と、教育・福祉はどうしたら良いかという難しい問題です。今まで培ってきたことを大切にしていくのか、それともすべて破棄して新しいものを構築していくのかというところで、ソフト面での分権型合併とかが議論されていますが、やはり残してほしいもの、改革してほしいものなど一つ一つ議論していく必要性があると思います。

### 市長

ね。

10月24日に任意合併協議会がスタートを切り、この協議会で新市将来構想、新市建設計画案を作っていきますが、このメンバーには鮎澤さんが言ったとおりいろいろな方が入りスタートしました。ここでメリット・デメリットを浮き彫りにし、メリットはさらに良いものにする、デメリットはどうすれば克服できるかみんなで知恵を出して、デメリットを放置しないように検討していきます。大勢の住民のみなさまにも傍聴していただこうと、6市町村を持ち回りでスタートします。

まで崩せなかったことを崩していただき、私たちにとって何が大事か、何ができるのか考えられるようになれば、合併も必要なことなのかと思います。

### 太田さん

今の合併論議というのは、ある意味ではやむ得ないという流れであり、以前この地域に合併の話が出たころとは違って



カナラホール「オペラ アイダ」

「地方分権とか地域主権」という言葉が変わってきている世の中の流れを見ても、求められているものが今までは行政がいろいろなことをしてくれて、そこに住む人間はそれを受身で受け入れていく。何かあったときは、行政に言っただけでもらうようなスタンスが強い時代でしたが、それがこういう状況では国もまたない、県もまたない、市町村もまたないという流れの中で合併論議が出てきている。合併すればメリットも出れば当然デメリットも出ますが、そこに住む住民の一人として新しい枠組みをどう生かしていくのかを主体的に考えていけば、そのときに初めて新しい枠組みが生きてくると強く思います。

### 鮎澤さん

広域で考えたときに、経済面・高校・消防・金融・介護

私も社会教育団体に属していますが、行政がすべて抱えこんでしまおうと、それはすべて税金で運営することなのですがお金がかかります。民間の活力を生かしたまちづくりをメインに掲げていかないと、まちは活性化していかないと思います。  
「ここは一緒にやりましょう」、ここまでは行政が立ち会いますが、ここからは民間でやっていく」という体制を構築していく必要性があります。

今までは形ができるときに、意見は聞いても行政サイドで企画から全部決めていました。やはり企画するときには民間の商業・工業・サービス業・農林漁業・教育・福祉・NPO・NGOなど様々な人たちを交えた中で、新しい企画作りを行うことを期待したいです。



平成10年 御柱祭

## 合併後の 岡谷市の特色は

〈進行〉永田さん

合併し、グロー

バル化・ネットワーク化することにより大きくなりさえすれば、すべて良いというわけにはいかない。それを成功させるためには、それぞれ自助努力をし立派になったものがネットワークを組めば、うまくいくような面があると思います。

もし、合併をする場合でも、今の岡谷市がさらに良くなるような努力をする中で合併をして、初めて立派な諏訪地域になると思います。そうした意味でたとえば、茅野市は農業、諏訪市は観光、岡谷

市は工業の特色をより磨きをかけて生かしていく中で合併して、初めてうまくいくと思いますが、そういう視点から岡谷市は合併していく中で、どこに重点・特色を出していけばよいかお聞きしたいと思います。

小島さん

岡谷市はスーパーデバ

イス産地形成の発信基地であるので、まずこれを一つだけやり遂げなければならぬ。そして、新しいまちの産業のリーダー役にならなければいけない。

もちろん、食文化としてのうなぎもありませんし、他市町村にない抜群の施設、国際公認のやまびこスケートセンターにしてもそうですし、カノラホールは全国的にみても残響効果などの施設がすばらしいので、合併によって岡谷市に出かけて使ってもら

例えば原村は、

私たちの日常生活に欠くことのでき

ない野菜類の供給基地ですから、農業は農業、工業は工業、観光は観光、

商業は商業と互いに合併によって競争力を高めながら、共に栄えていく調和のとれた新しいまちを考えて

いかなければいけないと思います。6市町村の合併の効果というものを、本当に生かした地方自治の充実を図ればすばらしいと思います。

小坂さん

お話を聞いてみると、

私には難しい問題だと思っていますが、岡谷市が工業都市として今何を目指しているのが、ここへ来て分かったという感じです。地域のみなさんに、合併のメリット・デメリットを具体的に提示していただければ、雲の上の話ではなく、私たちがどうやって関わらなければいけないのかが見えてくると思います。

お話があったように、岡谷市には岡谷市の良い特色があるので、ぜひ生かしていただきたいと思うのですが、果たして私たち住民が



おおた ひろひさ  
太田 博久さん

どれだけ分かって利用しているのかと疑問に思いました。

太田さん

諏訪全域の中の岡谷

地域として目指しているスーパーデバイスは、勝手な言い方ですが、ぜひ「モノづくり」という言い方で進めていってもらえばと思います。というのは、私のような製造業でない一般の人間には分かりづらいんです。せっかくものすごく良い技術があつて、すごいことをやっていると思うんですが形がよく見えない。超精密になつてくるとよけい難しくなつてしまいま

市長

スーパーデバイスという

言葉は、国の産業施策としての言葉であり、微細加工「ナノテクノロジー」と言っても難しく、一体それで何を作るのかというところ



林 新一郎 市長

もともと岡谷市は、

精密加工技術の結集のまちであったように、農村には農村として今後果たしていかなければいけない重要な役割があると思います。

つと難しい。世界で初めて導入し

たナノマシン（超精密複合マイク  
ロ加工機）という機械が長野県精  
密工業試験場にありますが、これ  
で革命的な産業・生産の合理化が  
図られると言っても一般の人には  
難しいですね。

### 太田さん

常に思っているのは、  
どんなに機械が発達しても人の  
手・努力が入ってモノが作られて  
おり、それを私たちが生活の中で  
享受して生きている。そういう誇  
れる技術が、この岡谷の地で行わ  
れているが、私たち自身も頭で分  
かっているが、それが実際どこで  
どうなっているのか知らない。ま  
して子どもたちはもつと知らない  
わけですが、そういう所を地域と  
して具体化して何か目に見えて分  
かるような形にしていく、こんな  
所でこんなことをやっているんだ  
ということがみなさんに分かって  
くれば、ここに**モノづくり**、  
私たちの生活とが少し近づいてく  
ると思います。将来の子どもたち  
の教育という部分でも、影響を及  
ぼすことと思います。

### 鮎澤さん

県精密工業試験場に私  
も行ったことがありますが、空い  
ているときがないくらい全国的に  
活用されている状況というお話を  
聞いて、もつとうまく活用し、**メ  
イン**に宣伝したらよいと思いま

す。

岡谷にある産業と、もし工業系  
大学が誘致できたらそれを一体化  
して、**産学官の連携**を持ったまち  
づくりが、**諏訪地域の大きな柱**  
あつて良いと思います。特色ある  
**市町村のモノと、全部つながる共  
通のモノ**があつても良い。

観光面で見ると、原村の美術館  
から**諏訪湖一周して諏訪が輪**にな  
るようなことを考えると、岡谷市  
は製糸業の盛んなシルクのまちで  
した。また、醸造業も多く、そう  
した歴史文化体験施設を設置し  
て、**諏訪を観光の面としてつなげ  
るもの**がほしいですね。そういう  
ものを組み合わせてまちづくりを  
行い、一体感が出てくれば良いと  
思います。

お年寄りが一番困っているの  
は、**新庁舎が諏訪に行つたとき**に、  
夜の会合とかも大変になるとい  
うこと。いろいろIT化すると困る  
ことも多い。病院等も手続きも分  
からなくて困っている人が多いの  
で、このような面をもう少し考え  
てもらいたい。

先日**の諏訪地方女性懇話会**で  
も、サービス面で不安があるのが  
大きな心配となつているので、そ  
こをどうやっていくかを今後、み  
んなで考えていかなければいけな  
いと思います。

## 今後の

## 期待・行動は

### 〈進行〉永田さん

いろいろお話を  
聞きました。交付金の話があり  
ました。交付が少なくなりますと、  
行政改革を進めて無駄な経費を出  
さないようにしなければならな  
い。

そのためには合併をし、**諏訪全  
体の市民が同じサービスを受け、  
同じ負担にする**必要があると思  
います。諏訪地域は一つにまとま  
つて、同じサービスを受けるほう  
が良い。

また、都市間競争もあり、**海外  
とも競争**していかなければいけな  
いし、それぞれの都市の中で生き  
残つていかなければいけない。例  
えば、長野、松本と競争してい  
くには、**諏訪地区として負けないよ  
うな一つの経済圏**を作っていかな  
ければいけないことを考えると緊  
急に合併を進めて、その中で岡谷  
市が生き残つていくことを考えて  
いかなければいけないと思いま  
す。が、まとめのご意見をお願いします。

### 小島さん

合併によって岡谷市が  
どういう立場で何を生かしてい  
かということもあると思います

## キーワード

### ● 地方分権一括法

住民にとって身近な行政  
は、できる限り地方で行い、  
国が地方公共団体の自主性と  
自立性を十分に確保すること  
を目的とし、47本の法律改正  
案が平成9年可決、平成12年  
4月1日から施行された。

国が行うべき仕事を機関委  
任事務として地方に委任して  
いた制度を廃止し、国・県か  
らの指示・許認可等の権限を  
市町村の仕事とした。

### ● 特例市

人口20万人以上を要件とし  
て政令で指定。都市計画（開  
発行為の許可等）、環境保全  
（水質汚濁防止等）などの権  
限が委譲される。

### ● スーパーデバイス

超精密・超微細加工技術等  
の応用で製作される精密部品  
に、センサー等の機能を付加  
した超高性能部品。

### ● 財力指数

地方公共団体の財力力を示  
す指数として用いられ、1に  
近いほど財源に余裕があるも  
のとされる。



まゆから糸取り体験 蚕糸博物館

が、やはり合併特例法の中にいろいろな恩恵があり、これを使っていただければ、これまで出てきた疑問などが解けていく部分があると思います。

例えば各地域で言ったことが、うまく中央に意見として伝わってこない。実際には特例法の中に、そういったものを解決するための地域審議会を作ったよという決まりもあり、疑問に思っていること、特にデメリットになっているものを解決していくことができると思います。

先ほどもお話がありました、諏訪湖周をつなげて、道路の不便なところは道路改修しながら、一

つにまとまった合併というものになってほしいですね。その中で、岡谷市は今ある産業の中からリーダーシップを作ってほしいと思います。

**鮎澤さん** 合併が今の時代に求められていることが、みなさんのお話で分かりました。見えない部分が多いということだけでなく、私たちも知っていく努力をしたいと思います。

ある年代層だけで議論するのはなくて、幅広い年代層でこれからの岡谷市をどうしていくか考えていくべきだと強く思いました。

**太田さん** 今年は岡谷市また諏訪地方にとって大きな転換期・分岐点になると思います。その中で私たちは6市町村が合併をして一つになることを「よるべ」として、将来に向かっての大きな起爆剤にしていきたいと考えています。

新しい枠組がどんな形になるかは、最終的にこの1年間で結論が出るのだと思いますが、それがどんな形になるにしても、私はそこで終わりではないと思います。ぜひ、この一年間行政に働きかけをしながら、合併ということを引きつけにして、これからの将来をみんなで考えて作っていくという雰囲気を作っていきたいと思っています。

去年、地域の高校生のみなさんの力をお借りし、諏訪湖一周をアイスクャンドルで囲もうという事業を行いました。今年も青年会議所が呼びかけて行う予定です。よ

り多くの地域のみなさんに参加していたら、全体を作っていくことがどんなことなのか、あるいはその中で一部を担うことがどんな意味があるのか、そんなことをぜひ実感してもらい、もっとも

と自分たちで何かできることがあるのではないかと、そんなことをみなさんに2003年という年に、真剣に一緒に考えていただき、将来に向かつて変化を起こそうとする勇気を生み出すような活動を行

っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

**鮎澤さん** 40代、50代の女性が一番合併に反対ということだそうです。会合、説明会を開いても出席するのは男性が多く、女性が出てくる率が非常に低く、話し合う機会も少ないと聞きます。

これからは、若いも若きも男女もみんな合併に対するワークショップをいろいろな形で作りだし、一部の上層部の人たちが作りだしてイメージではなくて、みんな納得いく方向で進んでいければと思います。

**市長** 今日は貴重なご意見あり

がとうございました。合併問題は非常に幅が広く奥行きが深く、多岐にわたるもので、膨大な検討を重ねていかないと地域住民のご理解を得ていくのは難しいと思います。

精神的に進めてまいりますし、岡谷市は出前講座という講座も開いておりますので、教人のグループを作っていたら、職員が出向いて合併についての説明をさせていただきますので、ぜひ活用して合併問題を勉強していただければと思います。

今年任意合併協議会からたくさんの方が提供されると思っていますので、市民のみなさんもぜひ興味を持っていただいて、自分たちの生活がどうなるのか一番身近なところに軸足を置いていただき、まちづくりへの積極的な参加をお願いしたいと思います。



昨年のアイスクャンドル大作戦（釜口水門）